

<2024 年、新年挨拶>



代表理事：連健夫

JCAABE 会員の皆様、明けましておめでとうございます。当団体は**良質な建築、美しいまちづくり**を目指す**社会改善型**の一般社団法人として設立 7 年目を迎えました。

当団体の認知も拡がり、様々なところからご依頼、ご相談を頂くようになってきました。文部科学省に採択された「まちづくりファシリテーター養成講座事業」は 2 年間の実施を経て、①「建築系のためのまちづくり入門」が学芸出版社から出版され、②講座設置校は 8 校に増え、合同授業や行政の参加が生まれ、③オンライン社会人・学生への講座が設置され、修了者は 300 名を越えました。文化庁事業の 2021～22 年度「カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業／住民参加のまちづくり」では、オンラインと訪問によって現地建築家や専門家へ**まちづくりファシリテーター講座**を行い、この成果は HP で公開しております。

新たな事業として、「JCAABE 良質なフェーズフリー建築まちづくりコンクール」が始動しました。これは、災害時も通常時にも役に立つデザインを建築・まちづくりにおいても進めていくべく、フェーズフリー協会の協力を得て、JCAABE でクライテリアを作り、建築まちづくりのコンクールを実施します。学生部門では、学生自主運営においてアイデアコンペを実施します。総合資格学院の共催、イケガミ、三浦製材から協賛を得ています。

他団体の提携・連携活動において、「一般社団法人日本室内空気保健協会」が新たに加わり、講演会や見学会等のイベントの相互紹介が行われるようになりました。JIA 建築家大会 2023 常滑では、街歩きワークショップに協力し、参加建築家に事前にファシリテーターのレクチャーや資料提供をする等のサポートをしました。行政からのサポートや常滑市長から挨拶を頂くなど、住民、行政、専門家の連携が実現しました。

当団体は、**建築・まちづくりの専門性を表示する資格とそのための研鑽**を主軸にしてはいますが、この専門性を明らかにすることは、発注者や住民の自主的活動における判断材料の提供や、行政における**専門家派遣制度**の拡がりの中で、今後ますます大切になってきます。その意味で、認定まちづくり適正建築士、ADR 調停人、登録まちづくりファシリテーターの資格の輪を広げていくことは、日本が成熟社会に向かう中で大切な運動とも言えます。次回の認定まちづくり適正建築士セミナーは 3 月 30 日 31 日にオンラインで実施されます。まちづくりに興味のある建築家、建築士にお声かけいただければ幸いです。

今年度は、会員間における対面での懇親やコミュニケーションの機会を増やしていきたいと思っています。この一年、**皆様にとって意味ある年**になることを心から願い、新年のご挨拶とさせていただきます。